

# 認めて、ほめて、育てよう 若者たちの良いところ

## 若者たちのプラスの側面に もっと目を向けよう

「青少年の生活と意識」調査\*から

「近ごろの子どもは…」という偏見や固定観念で、すべての青少年を見ていませんか。問題行動や非行など、青少年をめぐる問題は少なくありませんが、一人ひとりをみれば、それぞれ個性的で長所もあり、頑張っている青少年のほうが多いのです。青少年たちの良い側面にも、もっと目を向けてみませんか。

\*2000年内閣府調査「日本の青少年の生活と意識(第2回調査)」

## 家族のつながりを 大切にする傾向がある



青少年に関するさまざまな問題を背景に、家庭での親子のコミュニケーションの重要さが指摘されています。母親や父親との会話の頻度は、「父親と非常によく話す」が18.5%、「母親と非常によく話す」は41.2%です。この質問項目は、昭和45年度から5年ごとに実施する「青少年の連帯感などに関する調査」で

も聞いていますが、調査実施ごとに増えています。また、休日に家族と過ごす小中学生も増えており、家族とのつながりを大切にしているという結果がうかがわれます。

## 情報メディア型の青少年は 社会参加にも積極的



休日などにインターネットや電子メールを利用する情報メディア型の青少年は、消費文化にも参加する余暇活動の活発な層であり、社会問題への関心や地域

への社会参加は高いという結果が出ています。インターネットなどに没頭する若者は社会問題などに無関心であると思われがちですが、むしろ逆で、情報メディアの利用によって、視野を広め、社会問題への認識を高めている若者が多いようです。

## 消費文化的な青少年は 努力や能力、 実績を重んじる



消費文化<sup>注</sup>に多く参加する青少年ほど、私生活を大事にしなから、やりがいのある仕事や自分のやりたい仕事を求め、そのために努力することを評価する前向きな面があります。また、仕事での評価は、肩書きではなく、能力や実績で評価されたいと考えているようです。

<sup>注</sup>ここでの消費文化とは、買い物や映画・スポーツ鑑賞、ゲームセンター、カラオケ、

旅行など、家庭や学校以外の消費的な場に出ている余暇活動を意味しています。

## 協力し尊重し合う 共生社会を 志向する青少年もいる



自国と他国、女性と男性、強者と弱者が互いの違いや能力差を乗り越えて、共に生きていくことを志向する青少年も、全体の約2割と少数派ながら存在します。共生社会志向の強い青少年は、そうでない青少年よりも日本が抱えている問題が多いと認識しており、大量生産・大量消費を競い合う競争社会ではなく、互いにいたわり、協力し、慎ましく生きていくという新しい生活価値観をもっています。そうした青少年たちは、共生社会を先取りする生き方を実践しはじめていることがうかがわれます。